

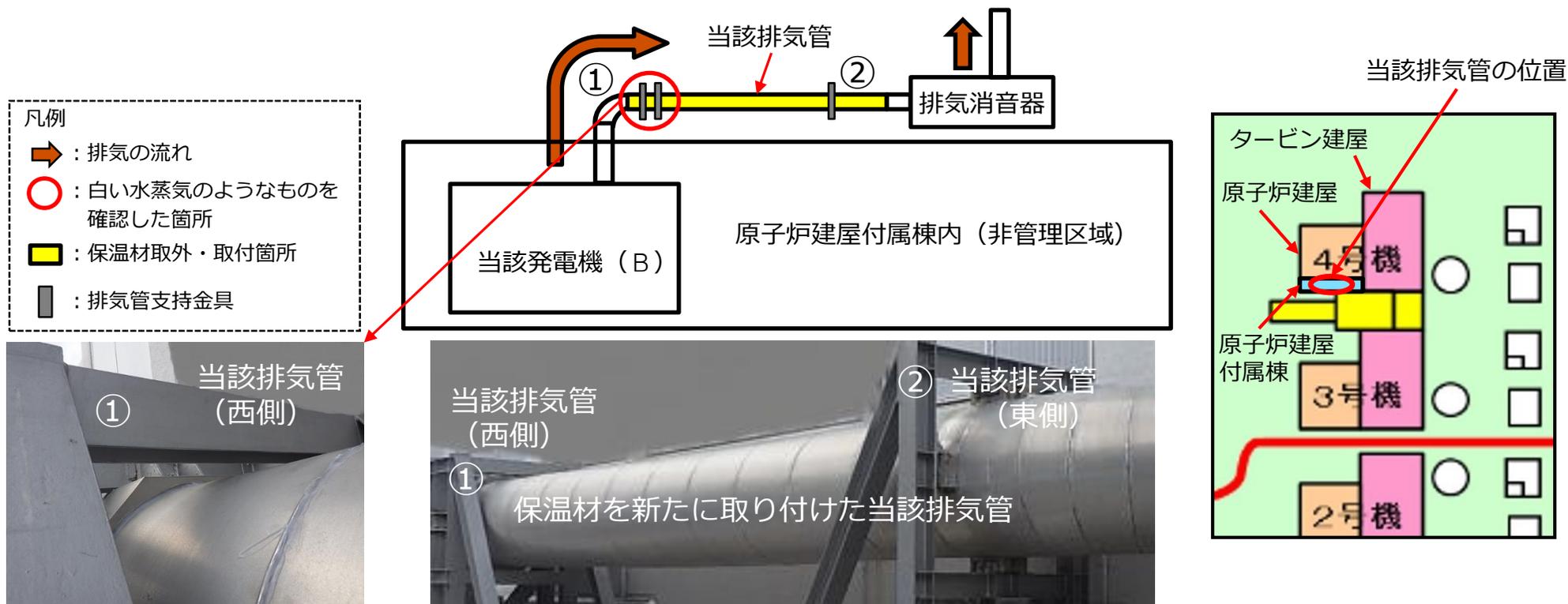
福島第二原子力発電所4号炉における第1回定期事業者検査の延長について（続報2）

- 2021年4月28日、原子炉等規制法に基づき、1～4号炉の定期事業者検査の計画等に関する定期事業者検査報告書（定期事業者検査開始時）を、原子力規制委員会へ提出いたしました。
(2021年4月28日お知らせ済み)
- 本計画に基づき、2021年6月14日から開始した4号炉の定期事業者検査において、非常用ディーゼル発電機*（B）（以下、当該発電機（B））の運転性能検査前の点検を実施したところ、2022年6月23日に屋外にある排気管（以下、当該排気管）から白い水蒸気のようなものを確認したため、6月30日終了予定だった定期事業者検査を延長いたします。
*非常用ディーゼル発電機：所内電源喪失時に所内へ電源を供給するためのディーゼルエンジン駆動の非常用発電機。
- 当該発電機（B）の当該排気管から白い水蒸気のようなものが確認されておりますが、万が一、外部電源が喪失した場合でも、他の非常用ディーゼル発電機により所内へ電源を供給することが可能であることから、プラントの安定維持に影響はありません。（2022年6月30日お知らせ済み）
- 6月29日から調査を開始しておりますが、当該排気管の保温材を剥がし、7月13日、目視点検をしたところ、排気漏れに至るような箇所が見られなかったことおよび保温材が湿っていることを確認しました。（2022年7月15日お知らせ済み）
- 7月19日、当該排気管の保温材を剥がした状態で当該発電機（B）の試運転を行ったところ、当該排気管からの排気漏れはなかったこと、および白い水蒸気のようなものも確認されなかったことから、当該発電機（B）点検後の試運転（6月23日）における排気熱により、保温材に浸入した雨水が蒸発したものであると判断しました。
- 本件による外部への放射能の影響はありません。（2022年7月19日お知らせ済み）

- 7月25日までに、当該排気管の保温材を新たに取り付け、7月26日、当該発電機（B）の運転性能検査を行い、機能の健全性を確認したことから、同日（7月26日）、定期事業者検査は終了しました。
- 定期事業者検査に問題はございませんでした。詳細については、原子力規制委員会に報告書を提出後、8月上旬頃に改めてお知らせいたします。
- 引き続き安全確保を最優先にプラントの安定維持に取り組んでまいります。

以上

発電機（B）における排気管の位置



<参考> 調査により保温材を剥がした当該排気管（屋外）

